

全国初の処遇改善も

# 学童保育の施策が前進

2013年度予算の子育て支援施策で一番目立っているのが学童保育関連のもので、国の事業に加えて、県単独で障がい児を3人以上受け入れている学童保育へ3人目以降の受入児童数一人あたりにつき年73万8500円(県、市、実施主体が三分の一ずつ負担)を支給する事業が新規で実施されています。

また、2013年、2014年限定ですが、指導員の処遇改善のための全国初の人件費補助が実現しました。

内容は、指導員の資格取得支援、研修会開催と研修参加に係る代替指導員経費補助、有資格者の処遇改善支援(月額1500円)となっており、処遇改善事業だけで県予算は1億2千万円を超えます。

この背景には、学童保育関係者、保護者、指導員などで構成された各自治体、県の連絡協議会の粘り強い働きかけや運動がありまし

た。県内の日本共産党の地方議員も議会で取り上げ、ともに運動してきました。

私も県議会の厚生環境常任委員会でたびたび取り上げて来たので、施策前進に少しでも役立つことができたのではと思っています。

しかし、課題はまだまだ多くあり、国政の動向が注視されます。利用料軽減補助を受け、経済的理由で学童保育を退所せざるを得ない子どもたちが存在する実態もあります。今後学童保育の前進のため、関係者と力を合わせていきたいと思っています。



こんにちは

## 渡辺ゆり子

2013年5月26日  
-46号

発行  
日本共産党県議会議員  
渡辺 ゆり子

<連絡先>  
日本共産党県議団執務室  
電話 023-630-3241(受付)  
自宅: 山形市青田2-10-5  
電話 023-642-2365



あいさつする紙智子参議院議員と太田としお山形選挙区候補(右)

紙智子参議院議員は「女性の要求と国会活動」と題して講演し、財界が女性を安い労働力と見ている現状と日本共産党が一貫した政策で女性の要求実現に取り組んできたことを述べました。また、TPPをめぐる国会論戦に触れ、日本が重要品目を守る保証は一つないこと、アメリカの要求を呑まされていることを指摘

5月12日、鶴岡市休暇村羽黒で参院選勝利をめざす山形県日本共産党女性後援会決起集会が開催され、県内各地から80人が参加しました。

最初に太田としお参院選挙区

候補が、アベノミクスで原材料価格が高騰している中、従業員

の雇用を守るため奮闘している中小企業の女性社長の姿を紹介するとともに、「政府交渉で、子ども医療費無料化を国で制度創設することを要求して来ましたが、実現に向けて全力でがんばります」と決意表明を行いました。

その後、鶴岡の女性後援会が、参院選挙での日本共産党支持を訴える対話の寸劇行い、太田候補と紙参院議員も参加したユーモラスなやり取りに会場は大爆笑でした。共産党県委員会の女性部長でもある私(渡辺ゆり子)が参院選勝利のための行動提起を行い、各地区から9人がそれぞれ決意表明をし奮闘を誓いました。

6月県議会の予定  
予算特別委員会の質問に立つ予定

県議会6月定例会は6月14日〜7月3日までの見込みです。請願締め切りは6月14日です。

紙智子参院議員(比例候補)と太田としお選挙区候補とともに参加。参院選勝利をめざす女性後援会決起集会



「橋下発言」に対し街頭宣伝で抗議する共産党写真 左 本間和也共産党山形県委員長 右 渡辺ゆり子県議

維新の会代表でもある橋下徹大阪市長の「慰安婦は必要だった」発言が国内外から批判をあびています。「慰安婦」というのは日本がつけた一方的な呼び名であり、真実は性奴隷にされた被害者です。人権問題に他なりません。怒りをもって抗議します。さらに腹だたいことは、安倍首相が「野党の党首の発言だから」の態度だったことです。そこには、かつて日本がアジアの国々を侵略したことを認めたくない態度、歴史認識の問題があります。ここ数日、特に女性の方々から多くの反応があります。「橋下発言は女性だけでなく男性も貶めるものだ」「橋本さんは自分のお母さんや子どもが被害にあったらと想像できないのだから」「日本の国益を損なう発言だ。恥ずかしい」「憲法改悪の動きと一体だ」などなど。

発言だけでなく、抗議行動をした方もいます。私も街頭宣伝で訴えました。今後も過去の歴史をしっかり学びつつ、未来に向かっていきたいと思っています。

ゆり子の視点

### 橋下発言に怒り